第１章　人口の現状分析

１．人口動向分析

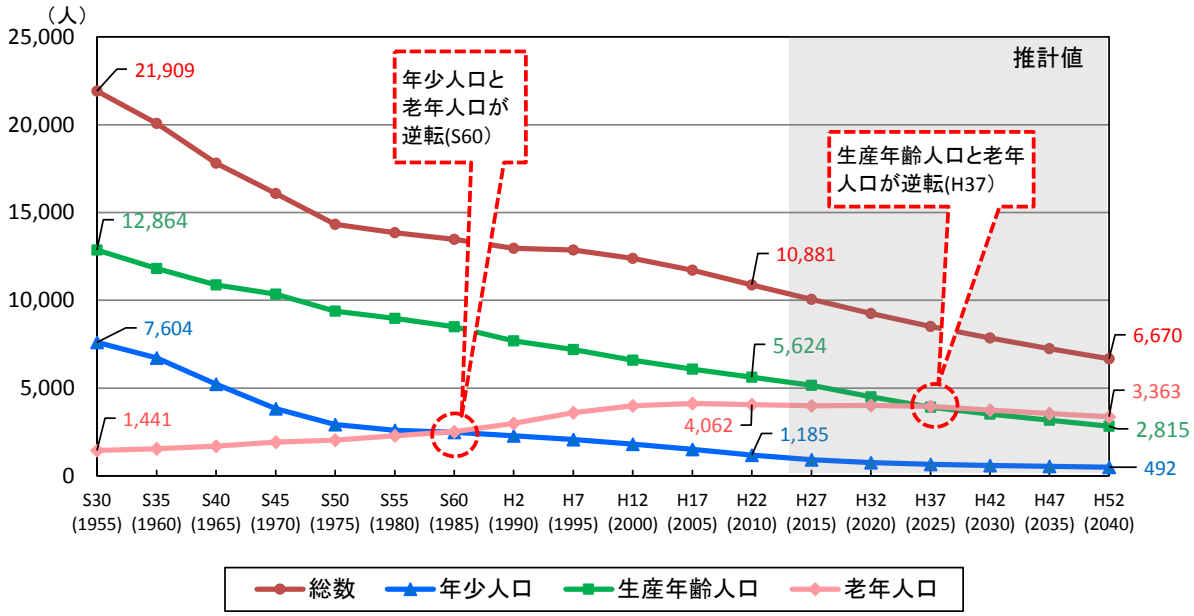
（１）総人口と将来推計

①年齢３区分別人口の推移

本町の総人口は、合併当時の昭和 30 年 21,909 人をピークに、その後は減少を続けており平成 22 年国勢調査では 10,881 人となっている。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計では、平成 52 年（西暦 2040 年）の本町の人口は 6,670 人まで減少すると推計されている。

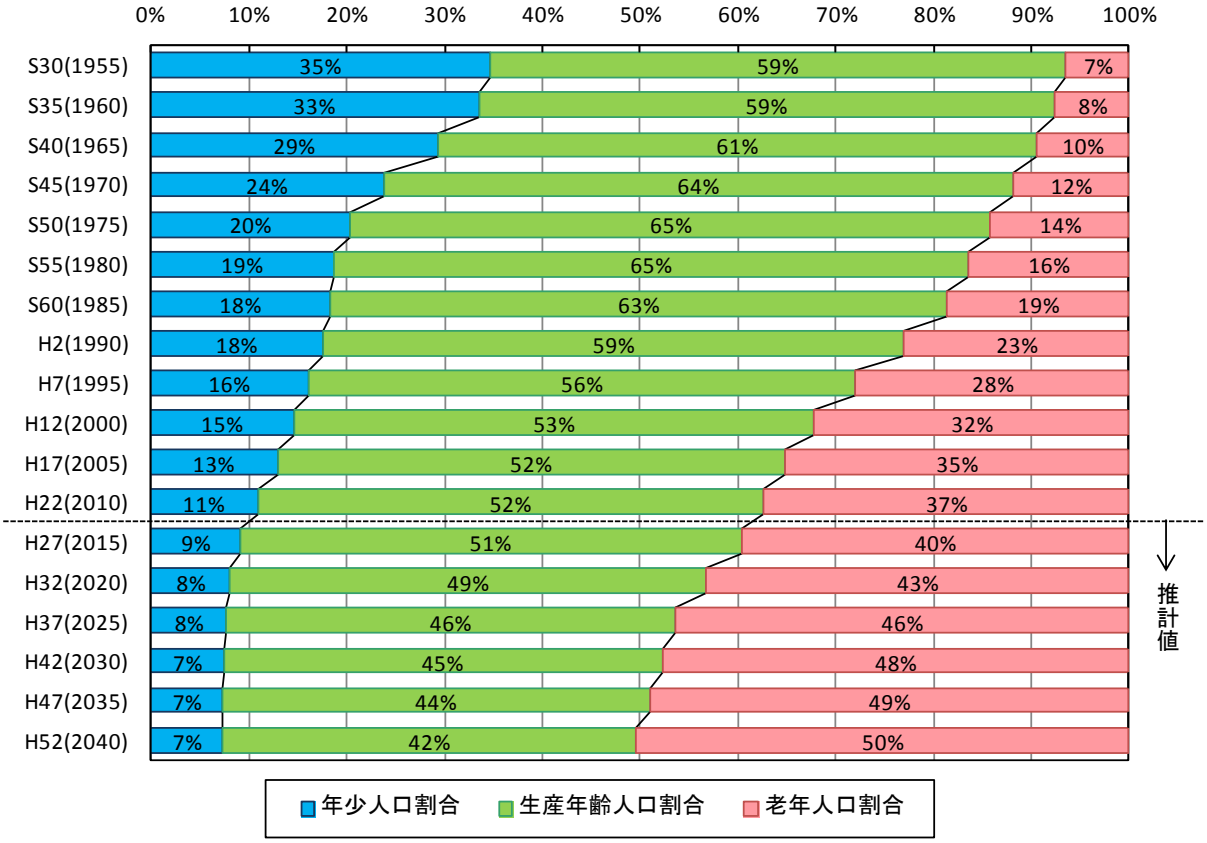
年齢３区分別の人口では、近年まで老年人口が増加を続けており、昭和 60 年には人口、人口割合ともに年少人口を上回っている。生産年齢人口は昭和 30 年以降継続的に減少し、同人口割合は昭和 55 年から徐々に減少している。老年人口は平成 17 年をピークに減少に転じているが、人口割合は減少せず今後も増加が続くと予想される。

図 1.1　人口総数・年齢３区分別人口の推移



出典：国勢調査（H26 まで）
人口問題研究所（H27 以降）

図 1.2　年齢３区分別人口割合の推移

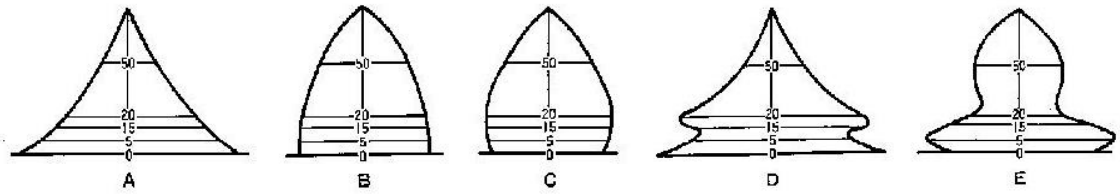


②人口ピラミッドの推移

昭和 60 年の人口ピラミッドは、若者が町外へ流出している自治体に多い「ひょうたん型」と呼ばれる形となっている。平成 22 年には年少人口、生産年齢の人口が少なくなり、「つぼ型」の人口ピラミッドに変化してきている。

平成 52 年には「つぼ型」から逆三角形のような形に近づき、少子高齢化・人口減少が深刻な状態となり、老年人口が年少人口に比べかなり多くなることが予想される。

■参考「人口ピラミッドの分類」



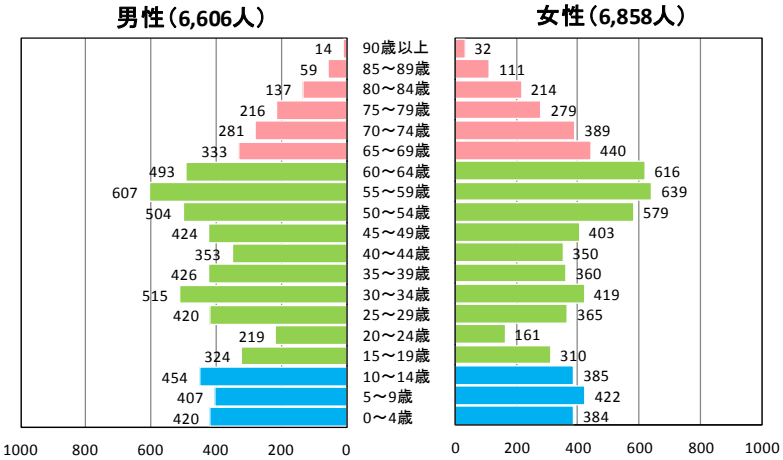
類型	概要
A： 富士山型 （ピラミッド型）	出生率が高く、人口が急増している。 発展途上国に多い型。
B：つりがね型 （ベル型）	出生率、死亡率がともに低い場合の型
C：つぼ型	出生率が死亡率よりも低くなった場合の型
D：星型	若い人口の流入が多い都市に見られる型
E：ひょうたん型	若い人口が多く流出する農村にみられる型

出典：山口喜一著「人口分析入門」

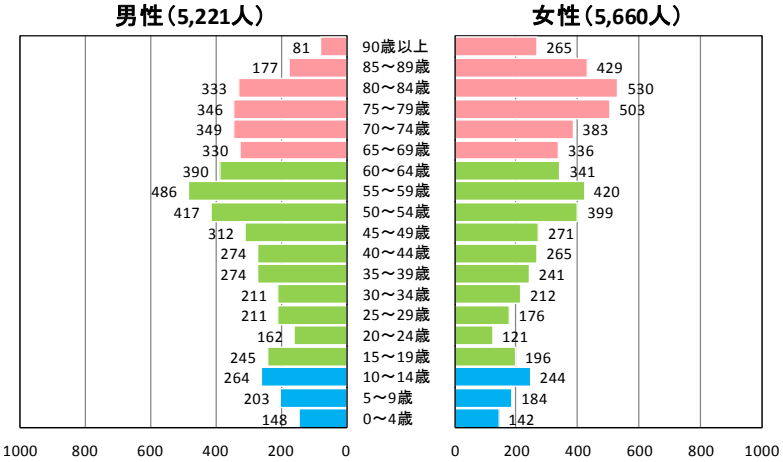
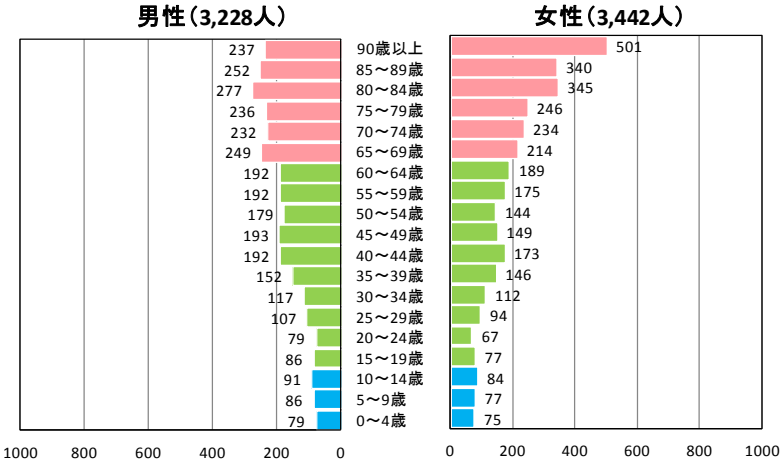
図 1.3　人口ピラミッドの推移

年少人口割合　生産年齢人口割合　老年人口割合

■昭和 60 年（西暦 1985 年）



■平成 22 年（西暦 2010 年）



■平成 52 年（西暦 2040 年）